

# 令和の日本型学校教育

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実～

## 「令和の日本型学校教育」

**全ての子供たちの可能性を引き出す**

**「個別最適な学び」と「協働的な学び」が**

**一体的に充実した学びが実現されたもの**

### 「日本型学校教育」

○学校が学習指導のみならず、生徒指導等の面でも主要な役割を担い、様々な場面を通じて、子供たちの状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む教育

○学校教育の本質的な役割

- ①学習機会と学力の保障
- ②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障
- ③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障

## ①個別最適な学び

### ◆ 全ての子供一人一人の興味・関心、発達や学習の状況等に合わせた学び

○子供に応じた重点的な指導や、特性、学習進度、学習到達度等に応じた指導方法・教材・学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが必要

○「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう留意

→ **一体的な充実の必要性**

## ②協働的な学び

### ◆ 子供同士の支え合い、学び合いの中で、一人一人のよい点や可能性を基礎に、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す学び

○多様な他者の中で学ぶからこそ、他者を価値ある存在として尊重できるようになる。社会を形成していくうえで不可欠な人間同士のリアルな関係づくり

○集団の中で個が埋没してしまうことのないよう留意

→ **一体的な充実の必要性**

## 「令和の日本型学校教育」の実現のための方向性

○ICT、GIGAをいつでも使えることは不可欠(教務(指導者、学習者)、校務)

○(その上で)一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせ活かしていく

# 事例① 天童市立天童中部小学校(山形県)の取組

学校教育の柱は「授業」。全体の8割は仲間と教師で創り上げる授業を行い、残りの2割でマイプラン学習とフリースタイルプロジェクトを進める。

## MP(マイプラン)学習～単元内自由進度学習～

・子供たちが、自分で学ぶ計画を立て、学習を振り返り、計画を修正しながら学びを進める

**チャレンジ学習<理科>**

じしゃくをきいたら SきょくNきょくは、どうなるの？

どんなじじしゃくでも、じしゃくのせいしつがあてはまるのか？

（コンパス・黒板のマグネット... など）

身まわりのじしゃくをさがせ！  
～どんなところにややく立っているのか～

じしゃくの強さくらべ  
～どのじしゃくが一番強力なのか～

NHK for School をみよう  
あじさいエドレス「じしゃくのあじさい」  
あじさいあじさい「くぐと」じしゃく「アワー」

じゅんぱんにやってもひとつに時間をかけてもいいですよ



マイプラン学習 理科「じしゃくのふしぎ」 学習の手引き(8時間)

単元目標

- ① じしゃくを身の回りのものに近付けたときの様子をひくしながら、じしゃくのせいしつについて理解することができる。
- ② 理科の器具を正しくあつかいながら、じしゃくをまとめたり、同じところ・ちがうところに着目してけっかからわかることを考えたりすることができる。

学習のながれ

学習のながれ	教科書	ワークシート
1 じしゃくにひきつけられる物・ひきつけられない物	148ページ～	ワークシート①
2 じしゃくと鉄のきより	151ページ～	ワークシート②
3 じしゃくが鉄を引きつける強さ	153ページ	ワークシート③
4 きよくのせいしつ	153ページ～	ワークシート④
5 じしゃくと鉄	157ページ～	ワークシート⑤
6 じしゃくをつかったおもちゃをつくろう	じしゃくのところが	ワークシート⑥

↓

**チェックテスト**

↓

おわっだら

↓

**チャレンジ学習**

「集団」の中で「個」で学ぶ



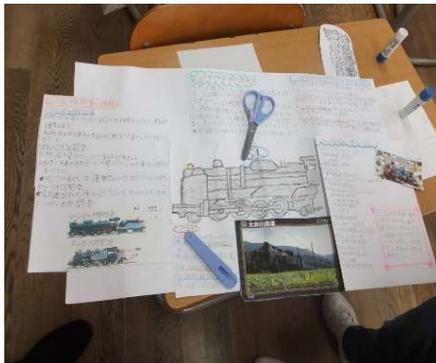
思った場所で、思った形態で、思ったように学ぶ



仲間と共に学ぶからこそ、自分らしく学ぶことができる

## FSP(フリースタイルプロジェクト)～個人総合、個人研究～

・学習方法に加えて、学習内容も子供たちが決める、相談して進める



自分の得意や興味関心に基づく学び



自分でも気付かなかった自分に出会う

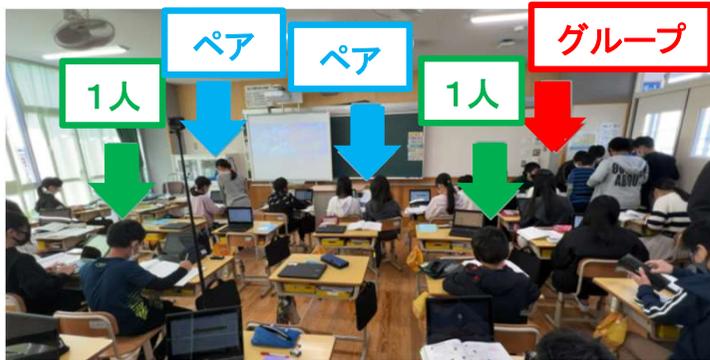


気になったことを探究し続ける

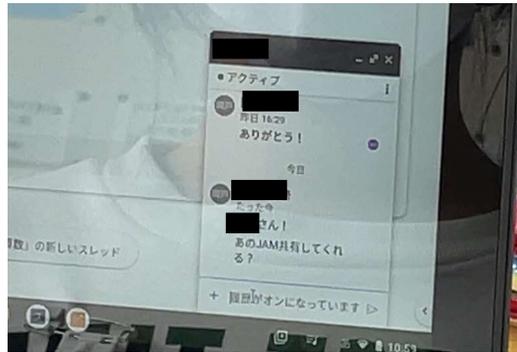
# 事例② 春日井市(愛知県)の取組

1人1台のICT端末を効果的に活用し、同じ教室の中で様々な形態の学びを実践するとともに、教師が学習ログ収集・分析することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実。

同じ教室の中においても、1人で学習を進める児童、ペアで学習を進める児童、グループで学習を進める児童があり、様々な形態の学びが行われている。



生徒が、LMS、共同編集機能、チャットを活用し、友達の意見を参考にしたり質問をしたりしながら、個別学習の場面においても協働的な学びが行われている。



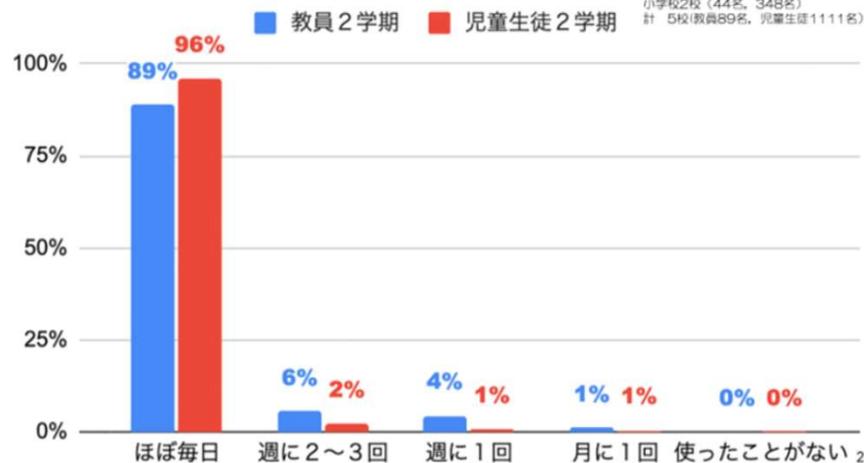
生徒自身がフォームで自分の状況を入力し、教師がリアルタイムで個々の生徒の学習状況や全体の学習状況を把握することで個別支援や全体指導を行う。



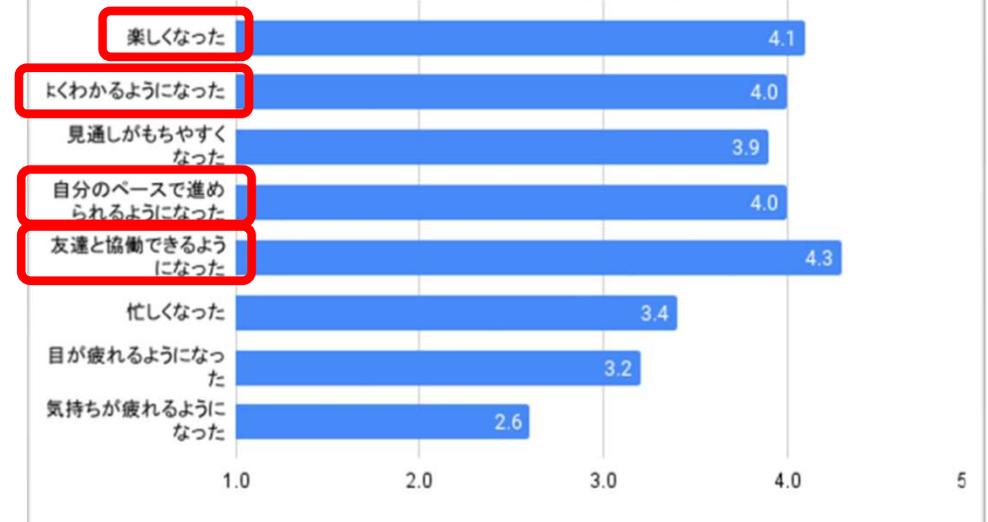
生徒1人1人の状況

● 自分の解き方と答えは正しく、理解できている。  
 ● 自分の解き方は正しかったが、答えは間違っていた。  
 ● 自分の解き方は間違っていたが、模範解答を見て解き方を理解することができた。  
 ● 模範解答を見たが、理解することができなかった。  
 ● なぜこうなるのかわかりません!

児童生徒の学校でのPC活用の頻度



1人1台端末がなかった頃と比較した授業の変化(5段階評価)



(参考)

村上唯斗, 水谷年孝, 登本洋子, 高橋純 (2021) 1人1台端末及びクラウド活用が日常化した中学校における教員及び生徒の意識. 日本教育工学会研究報告集, 2021 巻, 3号, pp.98-105  
 村上唯斗, 水谷年孝, 登本洋子, 高橋純 (2022) 1人1台端末及びクラウド活用が日常化した小学校における教員及び児童の意識. 日本教育メディア学会研究会論集, 第52号, pp.43-52